

「野本杯」贈呈に際して

平成22年3月28日
六稜ラグークラブ
会長 自見弘之（70期）

122期

XXXXX 様 （会員番号：XXXXXXXXX）

ご卒業おめでとうございます。この機会に六稜ラグークラブとして野本杯レプリカの文鎮とネクタイを贈呈させていただきます。ご承知の様に本来は天王寺高校との定期戦終了後に贈呈するのが慣わしですが、昨年は試合が開催出来ず本日になった次第です。贈呈にあたり「野本杯」の由来を説明します。

昭和30年の第32回対天王寺高校定期戦の試合中に野本武君（68期、当時3年生・主将）が頭部を強打して死亡する事故があった。

この事故の為に選手の気持ちが挫けたり、さらには伝統ある定期戦に万一のことがあってはならないと、野本君の父君が悲しみを押し付けて定期戦にトロフィを寄贈され、更に両校定期戦出場全選手にレプリカ（文鎮）の寄贈が野本家より毎年続けられた。

昭和55年父君がご逝去された時に、レプリカのご寄贈の辞退を申し入れたが、手持ち品のある間、昭和58年までご遺族により寄贈は続けられた。

昭和58年以降、永年の野本家の御厚意に報いる意味でも、両校の協議により、共催の形でレプリカの授与を続けていく事が決定された。

（ラグビー部75周年史より、HP（www.kitano-rugby.net）にも掲載有り）

この文鎮の裏に記された詩の一部は、当時桃陰ラグークラブ（天王寺高校ラグビー部OB会）会長で元日本弁護士会会長阿部幸作氏が詠まれた詩の一部が彫られて居ます。

“励ましの球を抱きて駆け抜かむ 行手の防ぎよし堅くとも”

本日はこの詩の全文も贈呈致します。尚、この詩は北野高校校舎西側「殉難乃碑」の横にある「野本武君記念樹」碑の裏面にも刻まれています。

野本さんのポジションは左プロップ（1番）でした。そこで、北野高校ではこの1番を永久欠番として16番を使って来て居ます。現在のリザーブ制ルールが適応される以前、背番号は1番から15番までしか無く、この16番は非常にユニークな存在でした。

又、本日よりOB会である六稜ラグークラブへ入会して頂き、今後末永く母校ラグビー部の為にご協力して頂く事を願って止みません。 以上